

# 南アルプス北岳

白峰三山縦走

日時 1972 昭和47年8月25日～27日(日)  
出発 名古屋 24日 19:18 乗車

第1日 広河原 大樺沢コース 北岳 稜線小屋

第2日 稜線小屋 間ノ岳 農鳥岳 奈良田

第3日 奈良田 身延 名古屋  
バス 12:00 20:00

C 笹島 宇 24.4.14  
X 中里 - 正 15.3.31  
丁 村上純 = 15.8.23  
〃 谷田 幹夫 17.11.16  
装具平均 1人15kg

大門沢下降点の下りも、こんな天気ではわかりにくい。下降点からやっと風を避けることができホッとする。  
天気が良ければお花畑に憩い、抜群羊の眺めもカメラに収めることができたのに残念な縦走だった。  
もう奈良田まで下るのみ。  
大門沢小屋の主人に奈良田の実状を聞いて出発する。

全身ズブ濡れて小屋へ着く。  
ラジウスで暖をとリ、ラーメンでやっと元気を取り戻す。あの破片岩の急な下りと嵐は全くひどい。手はかんで痛いほどの冷雨の凄さ。夏だというのに3000Mの稜線上の嵐は骨身にこたえた。1時間休憩に出発。もう替着もなめて奈良田まで頑張ろう。

大門沢の下り

大門沢の下り道の悪いこと、これがまた雨で滑る。木の根やガウ石の上を注意しながら真剣必死の下り……大門沢小屋の前は天気が良ければ富士山が美しいのそまれと聞く。ここで再び休憩する。小屋を出て大門沢を渡り返しながら山腹のトラバースから、小屋根を乗り越えて八丁坂をひたすら下るのみ。吊橋が次々現れ水界でしかないようなこの道に嫌になってしまふ。全く長い……やっとバス道路へ出る。運良く旅館のマイクロバスに便乗することができた。

南アの系行文は雨が多し。今日は朝から冷雨だ。風雨とガスの中を間ノ岳に向う。中台峰から岩屑を踏んで、岩稜の右をさみながら登り、吹き荒れる間ノ岳にたどり着く。

折角登り着いた頂上からの展望もガスにまみれ……残念、南アの山々はどんな姿か？山はこんなことよくあるものだ。10時頃からガスが出始め、11時に見えなくなることは夏山に多いと聞く。

南アルプス国立公園  
北岳 3,192.4m  
山梨県・芦安村

頂上に立つ道標

河原には高山植物が咲き乱れ、テトの色も鮮やかに並ぶ。雪渓が白く反射し、明るくなるとした大樺沢、庭石にしたいような見事な岩石の間を氷のような水が流れ、いつでも飲める。

体が暖くなったので朝食をとる。いよいよ3000Mの第1日が始まるのだ。昭和39年開拓された大雪渓を登る大樺沢コースに行く。

北岳は富士山(3776M)に次ぐ高峰で、広河原よりの登山路は、豊富な高山植物、立派な岩石、大規模な雪渓、一流クライマーが腕を競うバットレスの岩場、見事な朝焼け、ヒラミッド形の豪快な山容など3000Mの魅力いっぱいの山である。

バスは甲府から2時間15分とあるが、4時に出発し、ノンストップで走るので、1時間35分で到着する。今朝は晴、気温14℃、一寸小寒いののでずく歩く。

